

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501035		
法人名	社会福祉法人 湊仁会		
事業所名	グループホーム 白石の郷 さくら通り		
所在地	札幌市白石区本郷通3丁目南1-16		
自己評価作成日	平成26年7月21日	評価結果市町村受理日	平成26年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様の高齢化・認知症の進行及び身体機能の低下に合わせ、個々の生活を体力に合わせたペースで送って頂ける様支援する。
 ・運営推進会議や行事などへの参加も多く、職員とご家族が協力して生活を支援している。
 ・行事は、個別型や全体型、室内や室外等季節や内容に合わせて、変化をつけて行っている。
 ・食事は、鮮度の良い物を納品してもらい、美味しく楽しく安全な食事の提供に努めている。季節や層に合わせた食事やお菓子の提供を心掛けて
 いる。
 ・楽しみと安らぎを感じられる生活をして頂ける様、環境の工夫に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501035-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年8月26日(火)		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に建つ開設14年の事業所であり、介護老人保健施設、デイサービスセンターを併設し、日常のレクリエーションや入浴、防災体制等において連携が見られる。開設時から地域密着を意識した理念を掲げ、他事業所と合同で地域住民を対象とした相談会、勉強会を開催するなど地域貢献に努めている。事業所内は清潔で日当たりが良く、廊下、台所、居間等の共用空間は全て広々とし、要所にソファ、テーブルが置かれ利用者の寛ぎの場となっている。居室はトイレ、洗面台、クローゼットが備え付けとなっている。運営推進会議では全家族に案内を送付し出欠を確認しており、家族の参加率は高い。家族からは運営推進会議や来訪時に忌憚なく様々な意見や要望が出され、運営に活かされている。介護計画では毎月モニタリングやカンファレンスを行い丁寧に評価し、介護記録が計画と連動するよう事業所独自の書式の工夫が見られる。また研修体制の充実、資格取得のためのバックアップ等、職員の育成にも力を入れている。利用者のこれまでの生活のペースやその日の過ごし方等希望に沿った個別のケアを大切に考え、外出等の要望に迅速、柔軟に対応している。職員は業務の中で管理者に忌憚なく意見や要望を言うことができ、職員同志も日常のケアの中で注意、相談しあうことができる良好な関係が構築されている。利用者との関係も良好で、利用者の穏やかな表情が見られる。管理者及び職員は、理念である地域の中でその人らしく安心して生活できることを目指し、利用者を第一に考える真摯な姿勢がうかがえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念に沿って、地域の中で安心して生活して頂けるようサポートしています。また、入居されていない方でも、入居に関してのご相談があった際は、ご相談内容をお伺いし、当ホームで対応できない場合でも、他の介護施設や相談機関を紹介させて頂いている。	開設時に管理者、職員で地域密着を盛り込んだ理念を作成し、事業所内の要所に掲示し、パンフレットに掲載している。管理者は職員採用時やミーティング時に日常業務の中で理念について話し、職員は常に理念を意識しながら利用者に接している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園やスーパー等に出席する事もある。散歩をしていると、近隣の保育園児と挨拶を交わすなど、少しずつ交流がある。	他事業所と協同で認知症に関する勉強会、相談会を行い、多数の地域住民の参加を得ている。日常のレクリエーションはボランティアが中心となって行われている。近隣保育園児との定期的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防センターや包括支援センター・他グループホームや関連企業と協力し、地域住民に向けた認知症研修会を開催し、地域の方に認知症について理解を深めて頂ける様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施。ご家族の参加率は高い。会議の際には、一方的な報告に終わらないように努め、行事等へのご意見を伺い、業務に反映できるようにしている。ご家族から介護保険についての質問も聞かれる。	家族、地域住民、地域包括支援センター職員が参加し、状況報告を行い、外部評価や防災対策等が議題となっている。また行事や業務内容、環境等多方面で細かな意見、要望が出され、運営に活かしている。家族には案内状及び議事録を送付し、多数の参加を得ている。	多数の家族の参加を得ているが、高層(マンション)住宅街という環境上、地域住民の参加は少ない状況となっている。今後、地域住民への更なる働きかけや、多くの参加を得られるような議題の工夫を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の相談はするが、市町村担当者との連携が密に取れているとは言えない。	生活保護、介護保険担当者とは、必要時には電話で相談する等連携を図っている。また市、区、グループホーム協会等が主催する研修に参加し、担当者や同業者との情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体として、身体拘束ゼロを目指している。転倒のリスクの高い方には、家具の配置換えや足元センサー等工夫を行っている。点滴を引き抜く可能性の高い方は、側で最後まで付き添う等行う。又、言葉の抑制も行わない様、否定しない声掛けを心掛けている。	身体拘束防止マニュアルを作成し、内部研修において身体拘束や虐待に該当する具体的な行為について学習し、毎月のミーティングにおいても確認している。日常業務の中でも職員同士注意し合い、身体拘束や虐待のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は発生していないが、身体的な虐待だけでなく、言葉の虐待にも常に気をつけ、職員同士で声を掛け合いながら注意し合い、予防している。毎月のミーティングでも接遇について話し合いを行っている。研修も、定期的に参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識が高いとは言えない。ご家族への情報提供として、行政書士事務所等のパンフレットを用意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの機能・考え方について詳しく説明し、ホームとして出来る事やご家族に協力して頂きたいことについて、説明させて頂いている。ご納得頂いた上で、ご入居して頂ける様、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に伺ったご意見やご要望については、出来る限りお受けできるように、ミーティングなどで話し合いを行っている。出来ない事については、必ず理由を説明させて頂いている。	職員は家族来訪時には必ず声かけし、家族からは忌憚なく様々な意見、要望が寄せられている。これらの意見、要望は日々のミーティングや連絡ノートを通して職員間で共有し、迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフミーティングを行っており、運営状況の報告や業務についての報告・意見交換をしている。又、各階で話す場も設けており、業務改善やケアについてより細かな話し合いが出来る仕組みになっている。	意見交換の機会として月1回のミーティングや年2回の管理者との個別面談がある。さらに職員からは随時、業務内容や行事、備品・環境など様々な要件について細かな意見や要望が出され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を推進しており、取得後は、給与や賞与・資格手当等の昇給に結びついている。有給休暇も比較的とれる環境にある。又、個々が中心となって一つの事を成し遂げ、達成感ややりがいに繋がるように、業務を振り分け、実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、法人内外の研修に参加できるように取り組んでいる。特に、防災研修・感染研修・接遇研修・虐待研修は、何度でも参加し身につけられるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで、他職種・他機関で働く方と交流できる機会を作っている。研修参加は、グループホームといった小さな限られた人数の中で働く者にとって視野や考え方を広く持つ為にも重要であると考え。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の有無に関らず、相談があった時点で詳しく、お伺いし対応している。入居希望された場合は、必ずご本人とお会いし、認知症や体の状況・生活状況をお伺い、早めにグループホームに馴染めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の相談・要望に傾聴し、安心・納得してご利用頂ける様努めている。職員からの声掛けを多くするように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談があった時点で、その方に必要なサービス等の助言をさせて頂き、必要に応じて介護保険施設・病院・相談機関のご案内をさせて頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に食事をし、掃除・洗濯など家事援助を行っている。掃除・洗濯等も出来る場所は、お手伝い頂ける様に促している。世間話をしながら、ゆっくり過ごしたり、職員がわからない事を教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、消耗品の買い物や受診・外出のご協力をして頂いている。行事にも参加して頂き、ご本人とご家族と一緒に楽しんだり、支え合っている環境が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人やご近所の方等訪ねて下さっている。又、ご家族と一緒に外出されることもある。	家族と協力し、昔馴染みの床屋での散髪や墓参り等の外出を支援している。利用者の友人、知人が事業所を来訪することもある。また家族との電話や手紙のやりとりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食席の配慮等を行っている。その為か、入居者同士の自然な会話が観られる。あまりお話できない方も、職員が間に入る事で会話が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もグループホームとの関係がなくなるとは考えていない。必要に応じて、出来る範囲で相談に応じている。引き続き、親族のご相談をされるケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活スタイルを大切に、毎日の習慣等を継続できるように対応している。お誕生日には、好きな食事を提供するなど、お一人お一人に合わせて対応している。	思いや意向の把握が困難な利用者については家族から生活歴や習慣等の情報を得て、職員間で情報を共有し、これまでの生活のペースやその日の過ごし方の希望に沿った個別のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から、これまでの習慣や生活歴等をお伺いすることで、日々のコミュニケーションやスムーズなケアに繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長年の生活習慣や特技・趣味として行っていたことを把握し、小さなことでもご自分で出来る事を探し、行って頂く様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、毎月実施。ご本人・ご家族の会話やご要望、主治医・看護師のアドバイスを取り入れ、ケアプランを作成している。	毎月のモニタリングやカンファレンスにて丁寧に介護計画の評価を実施し、利用者、家族、職員、医療関係者の意見や情報を総合し計画を作成している。介護記録は事業所独自に作成した「ケア項目」に沿って評価する書式で介護計画と連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や日々の出来事を記入。ご本人の言動がわかるような記入方法に努めており、モニタリングやケアプランの作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期入居の場合、ご本人・ご家族の生活状況は変化してくる。ご相談やご要望があった際は、お伺いして可能な限り対応させて頂く様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店を利用し、ご自分での商品の選択や精算など出来る事を行って頂いている。又、公園なども気分転換の場として利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望する病院の受診・往診を受ける事が出来ている。必要に応じた検査や専門病院との連絡をして下さっている。	入居前からのかかりつけ医への受診も家族と協力し支援している。協力医、歯科医による往診も行われている。医療機関、事業所看護師と連携し、夜間緊急時も適切な医療を受けることができる体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、健康チェックや処置を受ける事が出来る。専属看護師不在時も、デイサービスの看護師に相談することが出来る。協力医療機関の看護師も必要に応じて訪問してくれる体制にある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関へ情報提供し、安心して治療や介護を受けられる様に協力している。又、早期退院に向けて、こちらの受け入れ態勢や対応可能な範囲の情報提供をし、早期回復に繋がられる様、協力している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りの事はさせていただきますが、常時医師・看護師の治療・観察が必要な場合は、対応できない事をご理解頂いている。そのような状況となった場合には、医師より直接ご家族へ説明して頂く様にしている。	重度化や終末期に向けた指針や同意書を作成している。事業所として対応できること、できないことを入居時に説明するとともに、身体状況の変化に伴い医師、家族、職員で連携し話し合いを重ねながら対応することとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、救命研修を受講している。看護師にも、都度指導してもらい、身に付けられるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者指導の下、定期的に避難訓練や防災研修を行っている。避難訓練には、必ず消防職員が立ち会っている。外部研修にも参加し、スキル向上に努める。震災に備えて、非常食等も準備している。	年2回、消防署指導の下、昼夜想定で避難訓練を行い、利用者も実際に避難している。災害時備蓄品を準備し、隣接介護事業所との協力体制を整えている。定期的な防災点検を行っている。	火災だけでなく、あらゆる自然災害を想定し、更なる災害対策の充実を期待する。運営推進会議などを通して地域住民にも避難訓練への参加を呼びかけ、併設事業所だけでなく地域との協力体制の強化を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字でお呼びするのが基本。ご本人やご家族の希望に合わせた呼び方で接している。プライドへの配慮にも注意している。	内部研修、ミーティングで接遇について取り上げ、利用者の尊厳を損ねない対応に努めている。面会簿、記録帳票類も適切に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問等をする際は、決め付けの声掛けではなく、選択肢を作るなど、返答しやすい声掛けを工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や一般的常識・価値観でなく、その方の生活背景を大切に、その方自身や他の入居者様へ過大な迷惑が及ばない限り、自由に過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの物を着て頂き、新しい物を購入する際にも、好みの色・形の物を購入して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力や希望に合わせて参加して頂いている。五感で楽しめるよう、盛り付けを工夫し季節を感じられるような果物や食事を提供する様、心掛けしている。	季節ごとの行事や誕生日には利用者の希望する献立にしたり、外食や出前など食事が楽しくなるよう工夫している。利用者の嗜好に合った代替食、身体状況に適した食事形態に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一定の食事・水分が摂取できるように支援している。個人に合わせて量や形状・回数を変更して提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状況に合わせて、口腔ケアの介助・見守りを行っている。感染予防・食欲増進の上でも重要と考える。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握、行動から尿意・便意を察知し、さりげなく排泄誘導するようにしている。又、オムツの使用は、必要最小限とし、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	各居室にトイレが設置されている。介護記録から排泄パターンを把握するとともに、利用者の様子から察知し、職員同士声かけしながらトイレへ誘導している。介護度の重い利用者も、できるだけオムツを使用せずトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう、食事内容や水分摂取量に注意している。毎日体操を実施し、体を動かす機会を作っているが、状況に応じて医師と相談し、服薬調整している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事がない限り毎日実施。希望や体調を考慮し、入浴して頂いている。入浴拒否のある方は、タイミングを見て入浴して頂く様にしている。	週2回以上を目途とし利用者の希望に沿った入浴を支援している。異性介助に拒否のある利用者には同性介助を行っている。時には併設するデイサービスの風呂(車いす対応)を利用することもある。入浴剤の使用等入浴が楽しくなるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中で体を動かして頂ける様に、家事やレクリエーションに参加して頂いている。寝付けない時には、温かい飲み物の提供などを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、時間に合わせて、その方に合った方法で服薬して頂いている。服薬困難な方には、その旨を担当医に伝え、形状や時間の変更を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本・新聞・CD・DVD等、自由に見聞き出来る様にしている。又、個人に合わせて洗濯物を畳む・おしぼりを作る、カレンダーをめくる等の役割を持って頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際は、一緒に外出している。ご自分で訴えられない方も、嗜好品を買いに外出したり、散歩に出かける機会を設けている。	近隣への散歩や買い物その他、利用者の希望に沿った個別の外出にも職員のシフトを調整し対応している。また事業所所有のリフト車を利用し、年間計画を立て外出行事を実施している。外出行事の際は家族にも周知し、参加を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には所持して頂き、買い物などで使用している。自己管理できない方でも、買い物の際にお預かりしているお小遣いを精算時にお渡しし、金銭のやり取りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された方のお部屋には、電話を設置し、自由に掛けることが出来る。携帯電話を持っている方もいる。自分で掛けられない方は、職員がかけて、会話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に寛げる様に、リビングだけでなく、廊下の所々に椅子を設置。談話スペースを設け、読書や音楽鑑賞を楽しめる様になっている。装飾も、季節感を取り入れる様にしている。	事業所の建物は中心が吹き抜けになっており、日当たりが良く明るい。廊下、居間、台所等の共用部分は全て広々としており使いやすく工夫されている。廊下の要所にソファ、テーブルを設置し、利用者が寛ぐことができる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、比較的広く設置。自由に使うことが出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や装飾品・食器の一部は使い慣れた物を持ち込んで頂いている。自宅と同じような環境に出来るよう、持ち込み家具や配置の検討を、ご家族と相談している。	居室入口のドアには目印をつけ利用者の混乱を防ぐ工夫をしている。居室はトイレ、洗面台、クローゼット、防煙カーテンが備えつけとなっている。使い慣れた家具やお気に入りの装飾品、思い出の写真等が配置され、居心地良く安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で、各居室・共有部分もゆとりある構造となっている。広すぎてすぐに掴まる場所がないなどの不自由な場所とならない様、入居者様の動線や癖合わせた工夫をしている。		